

教室ファシリテーション

～実践者に聞く参加型学習のポイント～

▼開発教育では、参加型学習の教育手法が重要視されています。知識を「教える」ことに終止せず、学習者の疑問や気づきを「引き出し」ながら、正解が1つではない問題に対して当事者意識を持って考えていく、参加型の学習方法を実践している先生方が多いようです。そのような参加型の学びを促進する役割をファシリテーターと呼ぶことがあります。ファシリテーターには、「容易にする人」「円滑にする人」という意味があり、目的や学習内容によって、より効果的な手法を組み合わせながら学びを促進します。

▼今回のメルマガでは、2017年8月に実施したJICA地球ひろば主催「開発教育指導者研修」(※1)にご参加され、2月24日公開セミナー「世界とジブンをつなぐ教育 ～映像教材による対話型授業事例～(※2)」に向けて授業実践された藤澤義栄先生(岩手県盛岡市立本宮小学校)に、教室でのファシリテーションスキルについてお伺いしました。藤澤先生は、いわて国際理解教育研究会にて国際理解教育/開発教育の教材開発や指導方法の検討など中心的に進められているファシリテーションの経験豊富な先生です。皆さまの今後の取組みのヒントとなれば幸いです。

※1: JICA 地球ひろば主催 開発教育指導者研修

https://www.jica.go.jp/hiroba/news/notice/2017/170814_01.html

※2: 【参加者募集中】2月24日公開セミナー「世界とジブンをつなぐ教育 ～映像教材による対話型授業事例～」

https://www.jica.go.jp/hiroba/news/notice/2017/180201_01.html

Q: 先生方や児童を対象に参加型学習を進める際に留意していることはどのようなことですか？

留意点1: グループ作業への抵抗を減らす

参加型学習は、参加している人たちが、嫌が応にも会話をしなければなりません。一斉授業に慣れている人たちにとっては、自己開示は抵抗があります。そこで、無理しなくても話せる環境であることを体感してもらうような工夫をします。

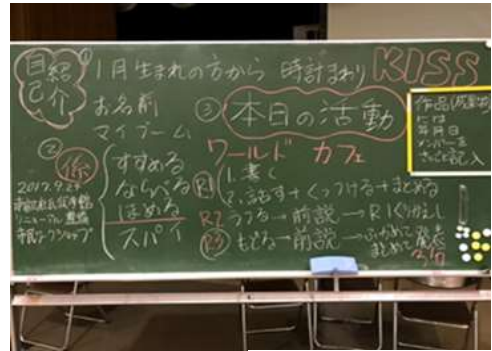
そこで、意識しているのはアイスブレイキングを丁寧に行うことです。まずは全体でできること、誕生日順に1列に並ぶバースデーラインは定番で行います。1月1日から12月31日までの誕生日の日付順に1列に並んでもらう活動です。対象者に合わせて以下のように、レベルを変えます。話し合いながら並ぶ。無言で並ぶ、手指を使っても良い。無言で並ぶ、手指を使わない。全体で気持ちがほぐれた時に、グループに分けて、グループ内で打ち解ける活動を設定します。今日の名前、マイブームを入れるなど、自己紹介を一定の様式で提示してグループ内で行ったり、グループの名前を考えてもらったりして、いつのまにか、話し合っている状況を作ります。



バースデーラインの様子

留意点2：授業・研修の一連の流れを示す

なんのために集まったのか、授業・研修の目的を明らかにします。活動の終盤には、どのような道りで授業・研修を行ってきたのかを黒板やハンドアウトで振り返ります。最後に、学んだこと、感想、疑問、評価など、進行の目的や対象者の実態に応じて、授業・研修を振り返った文章を書いてもらいます。これは、授業・研修の評価にもなります。



授業の流れを示した板書例

Q: 国際理解教育/開発教育を実施するうえで、学習者の疑問や気づきを「引き出し」、考えを「深める」ために、どのような工夫をしたら良いのでしょうか？

「引き出す場面」フォトランゲージの手法を元にした視覚資料の活用

写真からイメージを広げて情報を取り出したり、その背景を想像したりするフォトランゲージ（※3）という手法があります。この手法を生かして、写真の代わりに、教科書の図、資料で用いられている図、地図などの視覚資料を拡大して、学習グループに配り、情報の読み取りをグループの話し合いの中で行い、各々の気づきを共有する時間を持ちます。必ずしも、情報の読み取りが正しくなくても構いません。意識して対象物を見ることが目的なので、その後に続く学習が深まっていきます。

※3 フォトランゲージ

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiiko/oda/edu/kyouzai/handbook/html/h20102_1.html



イラストを見ながら気づいたことを共有している様子

「深める場面」成果物の活用

授業や研修で得たものをポスターなどの成果物にまとめる方法を、学習のまとめの場面で活用します。たとえば、問題の解決方法を成果物作成の手順で画用紙などの大判の紙にまとめて発表し合うことで、学習内容を子どもたち相互で確認しあえるようになります。また、少人数の学級では、授業の板書そのものを大判の紙に書いて、単元学習の終わりには、すべての授業の板書を掲示して学んだことを振り返ることをしたこともあります。



作成したポスターを基に発表する様子

「深める場面」共有する手法の活用

学んだことを、ワークショップで共有する場合には、ワークシートを様々な方法で活用します。それぞれのワークシートをグループで回し読みをしたり、指定したテーマについて回し書きをしたり、回ってきたワークシートに互いの感想を書き込みしたり、評価文を書き込ませたりします。同じように、授業や研修の場でも、ワークシートやノートを集団で回して、書く活動や読む活動を設定して、学習の共有化を図ります。

